※この資料は、あくまでイメージであり、実際の支援状況との関係性はありません(職員配置状況や設備基準等)

ケース①

※オレンジ＝児童、緑＝職員

利用者１４名／職員５名

時間：10：10 頃　長期休暇中の受け入れ

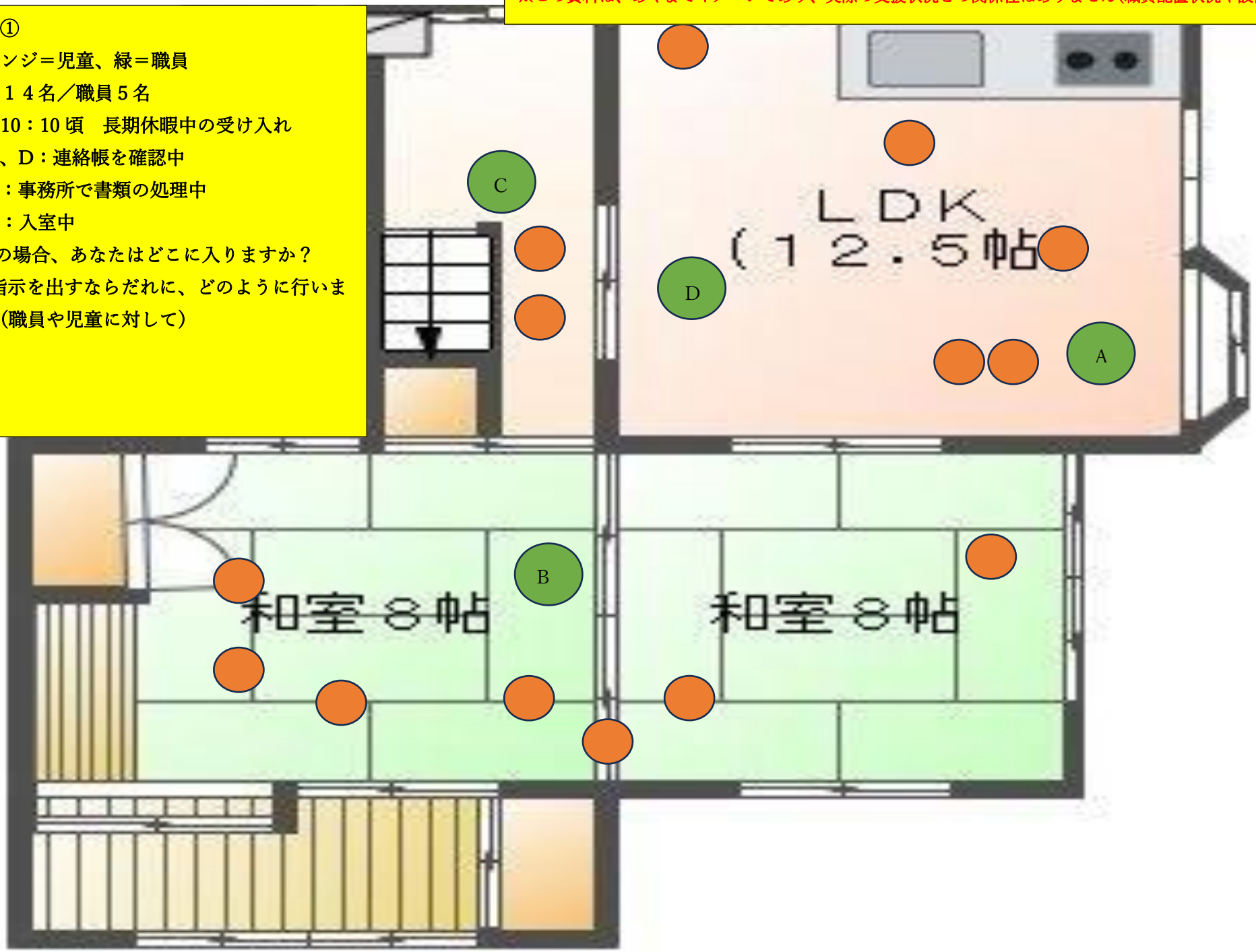
職員 A、D：連絡帳を確認中

職員 B：事務所で書類の処理中

職員 C：入室中

Q1.この場合、あなたはどこに入りますか？

Q2、指示を出すならだれに、どのように行いますか？(職員や児童に対して)



ケース②

※オレンジ＝児童、緑＝職員

利用者 13 名／職員 4 名

時間：15 時頃

職員 A：連絡帳記入＆児童の対応

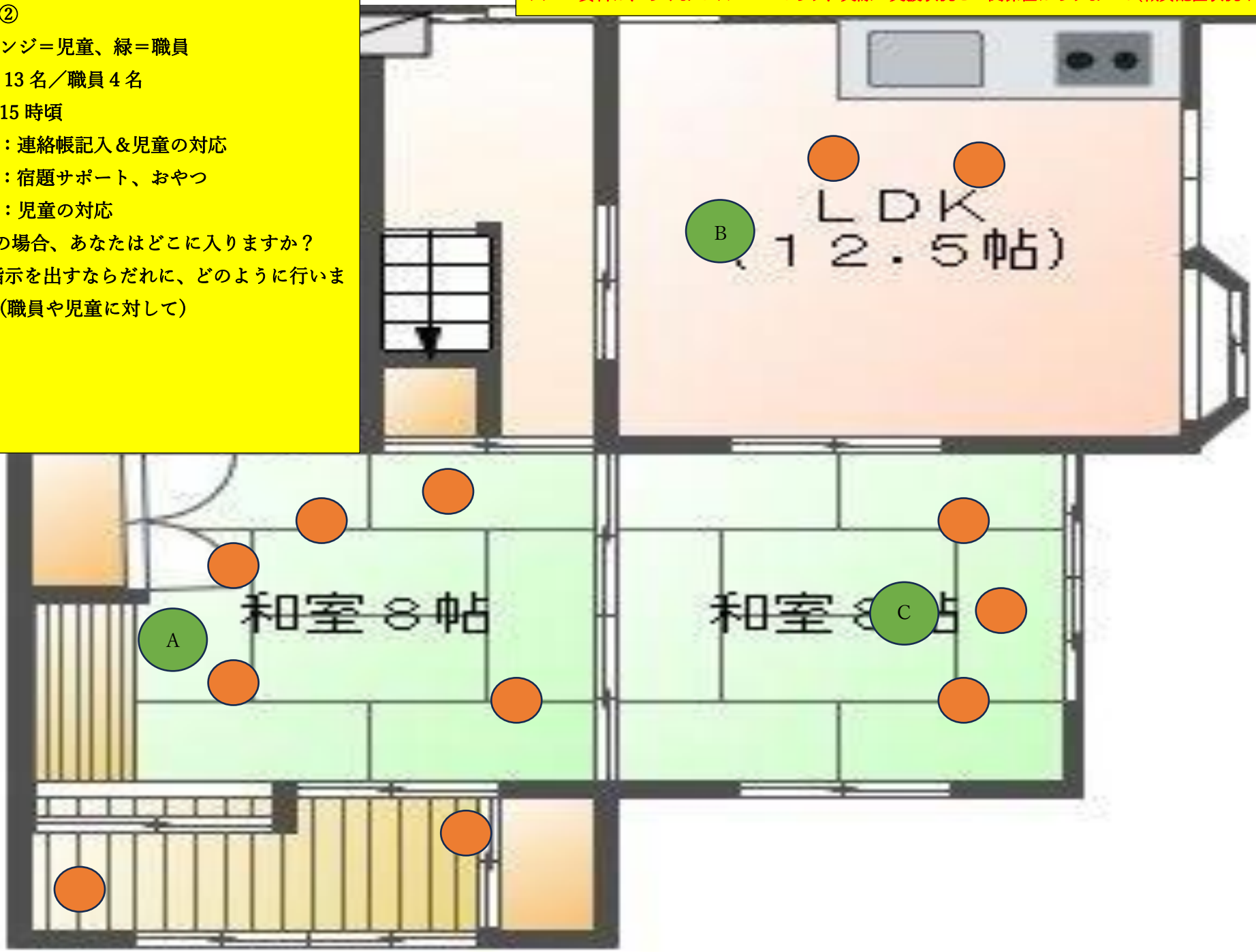
職員 B：宿題サポート、おやつ

職員 C：児童の対応

Q1.この場合、あなたはどこに入りますか？

Q2、指示を出すならだれに、どのように行いますか？(職員や児童に対して)

※この資料は、あくまでイメージであり、実際の支援状況との関係性はありません(職員配置状況や設備基準等)



チェックポイント

ケース①

☑和室で 7 名の児童に対して、職員が 1 名の状況は適切か

☑事務所での処理は、この時に行う必要があるか

☑児童の危険行為やトラブル等があった場合に対応できるか

☑職員同士での確認や声掛けは出来ているか

☑自分の役割や他の職員の動きは見えているか

☑連絡帳の確認は同時にする必要があるか

☑優先順位を付けて対応できているか

☑児童の安全を配慮出来ているか

☑児童の動きに合わせて対応できているか

☑より少ない人数で対応できる方法を考えているか

ケース②

☑いつも同じ位置を好んで入っていないか

☑その時に合わせた柔軟な動きができているか

☑児童間でトラブルになっている間に入りサポートが出来ているか

☑常に周囲の状況を確認し、流動的に動けているか

☑児童が 12 名しかいないことに気が付いたか

☑自分のポジショニングは本当に適切か(職員 A と職員 B の位置は逆の方が良くないか等)

☑分かっているだろうと確認を疎かにしていないか

☑視野が狭く、周囲の状況が把握できないポジショニングになっていないか

≪まとめ≫

　常に様々なケースを想定して行動できるよう心掛けましょう。

特に忙しい時間帯や業務の慣れ等で職員間や児童とも事前に確認を行わず「**分かっているだろう」「誰かが対応してくれるだろう」**と次第に意識が薄くなってしまうことがあります。その結果、児童が１名いないことに気が付かない、体調が悪そうな児童、怪我をしてしまった状況を見ていない等の安全性に対する配慮が足りておらず、児童の命に関わる重大な事故を招いてしまった事例も多々あります。

　役職や雇用形態、年齢、性別等を問わず、職員一人一人が強い責任感を持ち、互いに確認や声掛けを行い、安心安全なサービスを提供できるよう日々心掛けていきましょう。